

## 学会ニュース

会にとって忘れられないメモリアル

### イワクラ学会初の単

### 位組織、

### 「関東ブロック」誕

### 生！

関東ブロック代表 鈴木旭

### 関東の会員を増やそう

平成十八年（二〇〇六）九月二十三日（土）夜はイワクラ（磐座）学

デーとなった。東京・大井町の品川公会堂『きゅりあん』において、関東在住会員二十五名（委任状含む）の出席を得て『イワクラ（磐座）学会関東ブロック創立大会』が開催され、世話人会（鈴木旭代表）が提案する議案「関東ブロック創立」が満場一致で可決された。

関東ブロックとはイワクラ学会の地方組織というか、下部組織というか、学会全体の基盤となる単位組織であり、事実上、関西方面を基盤とする本部と並び、首都東京を基盤と

する単位組織の主力として学会の両翼を形成することになった。これが関東方面における学会活動の活性化に繋がるかどうか、今後に期待の目が集まることは間違いない。

さて、創立大会は午後六時、司会畔蒜一美さんの開会挨拶で開幕。続いて本部（大阪）を代表する渡辺豊和会長と柳原輝明事務局長から祝辞となるご挨拶をいただいた。挨拶の趣旨は「関西に比べて会員数が多くなるのが当然の首都東京において意外に会員数が少ない。今後、活動内容を充実させ、より多くのイワクラ研究者が参加する機会を増やし、古史のみならず、日本文化の本源の考察のために奮闘していただきたい」と叱咤激励するものとなった。

### 古代関東地図を復元したい

続いて、世話人代表の鈴木旭から関東ブロック創立に至る経過報告が行われ、事実上、関東ブロックの活動は始まっていることが強調された。それは昨年暮れ、吉田ゆうけいさん（古代筑波研究会会長）と関東在住のイワクラ学会会員有志が共同作業

として鹿島神宮のイワクラ（要石、鏡石など）探査を手掛けたのがきっかけになり、筑波山とその周辺における古代祭祀とイワクラ信仰の実態調査することになったという経過報告から始まった。

そこで弾みを付けたのが『古代筑波の謎』（学生社刊）の著者矢作幸雄さんだ。矢作さんは鹿島神宮禰宜、筑波大学大学院非常勤講師、筑波山神社権宮司を歴任された後、現在は龍神社宮司職をお勤めになっているが、著書の表題通り、古代筑波の謎を一心に追究してきた学究肌の御仁である。筑波山を中心とする古代筑波の文化と歴史に詳しい。

この矢作説に基づく歴史観、文化観に飛びついたのが鈴木であり、有志の皆さんであった。鈴木は「古代筑波は古代関東の表玄関であり、銚子沖から内海に入って聖地筑波山を目標にして上陸したはず。この地理と祭祀を明らかにしないと古代日本が見えて来ない」と言い切った。

その結果、飛び出したのが4月冒頭の「筑波山研修旅行」という企画

である。これは、吉田ゆうけいさん、金本隆さん、鈴木敏幸さん、美佐子さん、畔蒜一美さん、仲田篤子さん、そして、私が発起人となり、本部事務局と連絡を取りながら準備を進めることになった。「会報」を通じて全国の会員に参加募集を掛けたところ、意外に参加者数が多く、反応が良い。研修旅行は成功裏に終わることができた。

「もっと気軽に動きたい」

反省会の席上、関東在住の会員の間で「今回の研修旅行のようにもっと気軽に、独自に動けるようにはできないか」という声が上がった。少数で、身軽に、気軽に動けるようにしたい。それが最初の声だった。ちやんとした専門家や講師の講義を聞いて勉強しながら見学したり、自分のまったく知らない分野に案内していただけるようになればいいとか、いろいろな声が上がった。それらの意見を集約し、現実化したのが「関東ブロック創立」の提案だった。

詳細は創立大会当日に参加者の皆さんに配布した『活動報告書』を参

照していただければ幸いです。

### 式次第

<午後六時	開会>
開会挨拶	畔蒜一美世話人
来賓挨拶	渡辺豊和会長 柳原輝明事務局長
経過報告	鈴木旭世話人
<午後七時	記念講演>
講師	茂在寅男先生

<午後八時 閉会>  
閉会挨拶 金本隆世話

<午後八時半～二次会>  
「和民」(会費別徴収)  
(解散)



## イワクラ（磐座）学会

## 関東ブロック創立大会

### 活動報告

#### （はじめに）

われわれは、いまから7年前に『巨石にロマンを求めて』と題して、岐阜県山岡町において開催された『イワクラサミット in やまおか』を決して忘れない。考古学や民俗学などのアカデミックな世界においてまったく問題にされず、心ある研究者の個人的努力に支えられて細々と続けられてきたイワクラ（磐座）研究が、初めて全国的なネットワーク組織の共同研究テーマとなり、注目を集めるようになった日であった。

そして、グラハム・ハンコック氏

との交流が始まり、「失われた文明」に対する関心が高まるにつれ、ピラミッド（古代山岳祭祀遺跡）とイワクラ（磐座）の調査事例が増大。就中、インド洋西海岸のインダス川下流域で発見された海底遺跡と沖縄・与那国島南岸で発見された海底遺跡の調査研究が進むにつれ、古い考古学や民俗学の発想、手法では到達できない事実が次々に明るみに出てきたのであった。

こうした流れを受けて、イワクラサミットは急速に発展。アマチュア研究グループであるにも関わらず、高知県土佐清水市足摺岬において第2回大会を盛大に開催するや、福島県飯野町では考古学との融合・協調を目指す第3回大会を実現。奈良県山添村において開催された第4回大会に至った時、本格的な学術会議への飛躍、脱皮を求められたのである。要すれば、古い考古学や民俗学では決して触れることのなかった遺跡・遺物の調査研究に取り組み、単なる言葉遊びに終わらないリアリズムに徹したためである。本来、こ

したことは専門家たるべき学者の役目であり、われわれイワクラサミット出身者の担当すべき事柄ではない。それにも関わらず、学術会議への脱皮と飛躍を成し遂げたのは一に掛かつてイワクラ（磐座）研究に対する情熱と献身に他ならない。

イワクラ（磐座）学会は新タイプの学術会議創造を目指す集団である。文系に限らず、理工系の学者も歓迎する。そもそも技術者集団と密接に協力・協同関係を築いてきた集団であり、デスクワークではなく、フットワークによって調査研究する集団であり、異なる専門分野や異種技術との連携を歓迎する。この中に新しい未来を切り開く可能性を秘めて活動している現在進行形の集団と言って良い。もちろん、この程度のことはいま、活動範囲が広がるにつれ、日々に常識になりつつあるわけで、われわれ自身、さまざまな分野の学者や専門家を受入れ、本格的な事業の発展を実現する態勢を整備しておかなければならない。一つのテーマや技術に

偏らない、異分野の専門テーマや技術が混在し、クロスオーバーする形で共存できる組織体でありたいと思う。

（1）地域活動を大切にすべく古代関東地図を復元する。

1 鹿島、香取両神宮、筑波山を中心とする海と山のイメージの復元調査を試みる。

・相模、伊豆方面と武蔵、房総方面は別であり、古代関東の本拠は後者の武蔵、房総方面にあった。

・ポイントは海から見たイメージを復元することにあるのではないか。

2 筑波山信仰を解析する。

・筑波山（二上山の形式と構造）

と2つの里山（宮山とお宝山）の祭祀の思想を追及してみる。

・筑波山と周辺部との祭祀ラインを探し出し、地域社会建設の基本設計思想、アーキテクチュアを浮き彫りにする。

・2つの里山、宮山とお宝山の祭祀関係がどうなっているか、測量を

主とした追跡調査を実施する。

3 郷土史研究者、さまざまな専門家に学ぶ。

・筑波山信仰を調査・解析するため  
に矢作幸雄氏（元鹿島神宮権禰  
宜・前筑波山神社権宮司・筑波大  
学大学院非常勤講師）に教授、協  
力をお願いしたが、この種の試み  
は今後も継続したい。

・長い間、秘匿してきたお宝山、宮  
山のイワクラを開放し、初めてイ  
ワクラ学会の見学を許して下さつ  
た木村嘉一郎さんのような存在を  
大切にして緊密なつながりを保つ  
こと。

4 第2、第3の筑波山を開拓する。

## (2) 地域独自のブロック体制を 整

備する必要に迫られた。

1 もっと気軽に動けるようにした  
い。  
・関西中心、西日本重点の運営にな  
っているという声が聞かれるよう

になったため、関西本部の企画・  
運営面で再考すべきところがない  
か、考えていただく必要があるが、

他力依存ではなく、われわれ関東  
の会員自身が積極的に行動し、活  
発に活動できる体制、動きやすい  
体制作りを進めることが必要では  
ないか、ということで見解が一致  
した。

・筑波山研修旅行終了後も夏、超  
歴史研究会が南東北一周旅行  
（宮城県角田市～山形県山寺・  
天童市・村山市～出羽三山～秋  
田県田沢湖～岩手県盛岡市）を  
行い、私自身、個人的に参加さ  
せていただいたが、個人会員  
の場合、そういう活動は難しい  
というハンデがある。そこで  
関東ブロックという受け皿を用  
意すれば個人会員も乗り易くな  
るという提案があった。

・関東方面に限らず今後は東北、  
東海、四国、中国、九州などの  
各方面でも「地の利」「交通の便」  
などの実情に即して「ブロック  
体制」整備を進める様、本部役

員会でも指導して行く様に努め  
ることが必要であろう。これは  
本部事業の負担軽減を図る道で  
もあり、会員全員の努力、協力  
が求められる。

2 各方面ブロック間の情報交  
換・交流を促進する。

・今年春、関東ブロック設立準備  
会という形で関東の会員有志が  
集まり、筑波山研修旅行の企画  
立案作業に取り掛かり、そのま  
ま関東ブロック創立大会準備に  
取り掛かった。他の地区でもや  
っていたきたい。そうすれば、  
各地区の情報発掘や交流交換が  
やり易くなる。

・本部の情報収集、会報発行、大  
会実施もスムーズに実行できる  
ようになる。

## (3) 今後、それぞれが活躍で きる場

所を作りたい。

・ただ漫然と会員登録をして現地  
見学、研修旅行に参加するだけ

でなく、それぞれの専門や好み  
に応じて所属先を登録する「専門  
部会」を設置したらどうか。こ  
れは本部で実施して欲しいとい  
ろであるが、とりあえず、関東  
ブロックでテストケースとして  
実施してみたらどうだろうか。

①調査部会 遺跡調査中  
心の専門家グループ。

②技術部会 環境工学、土  
木技術などの測量技術とか、情報  
処理技術の専門集団。

③情報部会 国内外関係  
情報を追跡・解析する専門集団。

・強制しないで、やりたいという意  
欲と能力のある人物に担当してい  
ただくようにしないと維持できな  
いことに注意しておきたい。

## (4) 会費は徴収しない。

・会費は本部で集金しており、二重  
会費になつては不都合なので、会  
費は特に設定しない。ただし、見  
学旅行、研修旅行、講演会などの  
イベントが実施される度毎に参加

費用を徴収することとする。

- ・もちろん、日常活動に支障を来たすことのない様、若干の資金をキープしておく必要があるので、関東ブロック独自の口座を開き、若干の預金と現金を所持している。
- ・会計報告は毎年度、本部に準じて決算期に行なう。

(5) 本年度の担当役員の氏名と  
役職などの人事(案) (敬称略)。

代表(本会副会長兼任)	鈴木旭
副代表	金本隆
事務局長	畔蒜一美
事務局員	仲田篤子
同	川岸祐子
会計	鈴木敏幸
	鈴木美佐子

監査

岩田朱美

(6) 今後の活動予定

・『巨石サイト討議会』

1月27日(土)午後六時～九時半

きゅりあん(品川公会堂)第二研修室

尚関東ブロック主催行事ではありませんが  
次のイベントを支援しております。

・『須田郡司「イワクラ行脚報告会」』

12月15日(金)夜

きゅりあん(品川公会堂)